

「女性に対する暴力」を根絶するための課題と対策

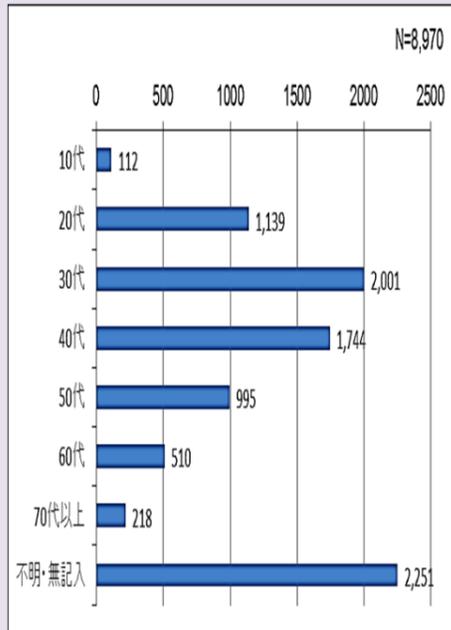
～パープルダイヤル(性暴力・DV相談電話)の結果を中心として～

結果概要 平成23年2月8日(火)～3月27日(日)の48日間実施、約2万件の相談に対応

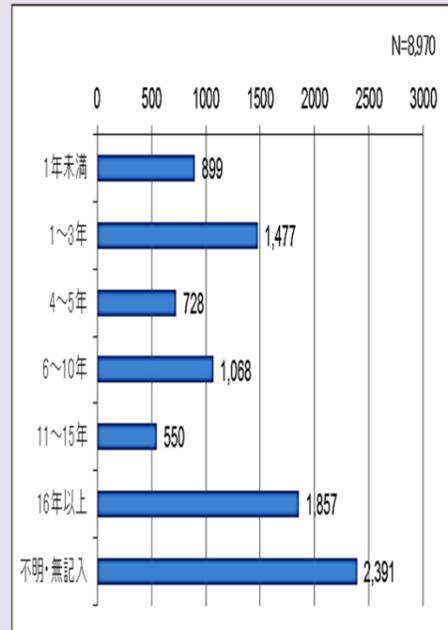
1 配偶者暴力に関する相談 8,970件

○10代から70代まで幅広い年齢層から相談が寄せられた。【図①】
 ○4人に1人(26.8%)が10年間以上暴力をふるわれ続けている。【図②】

【図① 年代別相談件数】



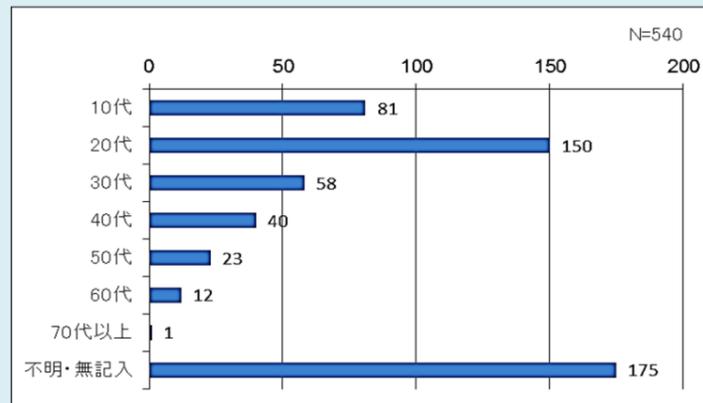
【図② 暴力の継続年数】



2 強姦・強制わいせつに関する相談 540件

○相談者のうち「10代」15.0%、「20代」27.8%【図③】
 ○加害者は、「知っている人」57.4%、「知らない人」15.7%、「不明・無記入」26.9%【表①】

【図③ 年代別相談件数】



【表① 加害者との関係】

関係	件数	%
知っている人	310	57.4
配偶者・元配偶者	18	3.3
交際相手・元交際相手	30	5.6
家族	76	14.1
上記以外の知人等	186	34.4
知らない人	85	15.7
不明	145	26.9
合計	540	100.0

3 男性からの相談 1,378件

○男性からは様々な相談が寄せられた。
 ・配偶者からの暴力に関する相談
 ・日常生活に関わる不安や悩みの相談
 ・夫婦関係、男女関係に関する(暴力以外の)悩み、不満
 ・暴力の加害に関する悩み など

4 外国人からの相談(6か国語対応) 879件

○在日外国人として、日本で暮らす中での様々な相談が寄せられた。
 ・配偶者からの暴力に関する相談
 ・様々な差別や人権に関する悩み
 ・子どもの教育に関する悩み
 ・法的手続きや在留資格に関すること
 ・地域での人間関係に関する悩み など

課題と対策

女性に対する暴力の予防と根絶のための基盤づくり

- ・職務関係者に対する研修の充実、相談しやすい体制等の整備
- ・男性を対象とした意識啓発、若年層向け予防啓発の実施

1 配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等の推進

- 切れ目なく支援が行われる体制づくり
- ・地域における関係機関・民間団体の緊密な連携の促進
- ・市町村における配偶者暴力相談支援センターの設置促進
- ・ワンストップ・サービス(※)の構築、同行支援等の推進
- ・加害者に対する取組の情報収集、調査・研究
※複数の手続きを一つの窓口で行えるようにすること。

2 性犯罪への対応の推進

- 被害を潜在化させず支援を受けられる体制づくり
- ・警察などの関係機関、医療機関、民間支援団体などの連携強化
- ・ワンストップ支援センター(※)の設置促進
- ・被害を相談しづらい原因究明とそれに基づく啓発、体制づくり
- ・強姦罪の見直しなど性犯罪に関する罰則の在り方の検討
- ※医師による心身の治療、医療従事者、民間支援員、弁護士、臨床心理士による支援、警察官による事情聴取等の実施が可能なセンター

3 男性からの相談への対応の促進

- ・男性相談窓口の周知、相談体制の充実

4 外国人からの相談への対応の促進

- ・外国語対応可能な相談窓口の周知、通訳の手配など関係者の連携